

編 集 後 記

今年も、祇園祭、大文字送り火、と京都の夏の風物が続きます。とは言うものの「今年は存続が危い」との報道が大きく出ました。編集子の実感としては年々盛んで感概を新たにしているのですが、これは無責任な他所者の立場からでして、両行事を支えている住民の方々は大変で、祇園祭の中心・四条烏丸地域の住人は年々減る一方で、今年は遂に函谷鉾地域の住人がゼロになったとか。すでに殆ど山の鉾地域で、代って昼間住民となってきたいる商事会社や事務所の労働者が祭を支えるようになっている次第です。送り火の方は、住宅地ですからこの心配はないのですが、銀閣寺町の旧家で火床をひとつずつ分担されており、年間の薪集めや防火対策が大変な苦勞とのこと。おそらく一度でもよいから鴨川で涼みながら眺め故人を偲んでみたいと思われることもあるのでは、とも思います。ともあれ市民の悲願で今年も存続となり、鉾巡行の先頭に行く長刀鉾の稚子に大川橋蔵氏の子息が選ばれたとか 鴨川の床ではやし方の練習が始まったとか、うれしいニュースが時折伝えられています。

「物性研究」の方は、サボりがちのものも含めて、「町衆」はなんとか確保されているんですが、肝心の御神体の方が夏やせ続きで、毎度のことながら申しわけありません。どうか存続を議論するような事態に至らないよう、全国の読者の方々に御協力をお願いする次第です。

(H. T.)

物 性 研 究

第 34 卷 第 4 号
1980 年 7 月 20 日発行

発行人	長 岡 洋 介 京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所 京都市左京区百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物 性 研 究 刊 行 会 京都市左京区北白川追分町 京 都 大 学 湯 川 記 念 館 内